

平成28年度 東蒲原郡特別活動部 活動報告

部長 金子 順一

1 研究主題

学習指導要領に即した特別活動のあり方

2 研究の概要

第1回（4月）…活動計画立案

第2回（5月）…講師を招いての研修会

講師 新潟市立上所小学校 教頭 三條 貴之 様

第3回（6月）…授業参観をもとにした指導案の構想についての協議

第4回（8月）…指導案検討会

第5回（9月）…授業研究 「クラスみんなが楽しめる係を考えよう」

授業者：阿賀町立津川小学校 4学年担任 近正 直美 教諭

指導者：阿賀町立上条小学校 教頭 小樋山 寿幸 様

3 研究の実際

(1) 講師を招いての研修会

新潟市立上所小学校 教頭 三條 貴之 様をお招きして、「主体性・協働性を高める学級づくり」について研修会を実施した。

学級活動において「問題解決力」や「人間関係力」を高めることの重要性、望ましい集団活動を通してグループをチームにしていくことの必要性について詳しく教えていただいた。

また、実際の学級会の話し合いビデオを紹介していただきながら、話し合いにおける教師の役割についても教えていただいた。「ねらいや見通しを持たせること」「ゆさぶりや論点整理などで気付きや考えの広がりを生み出すこと」「変容を振り返る場を設け、納得させること」など教師の役割が重要であることが分かった。



(2) 授業研究 4年生「クラスみんなが楽しめる係を考えよう」(学級活動)

2学期の始まりの時期であることをとらえ、1学期の係のあり方を振り返り、学級目標に照らして「2学期をもっと楽しくできる」係の設定を話し合った。担任は書記を行い、司会者への助言や話し合いを活発にする手助けを行った。

協議会においては、担任の助言のあり方について活発に議論された。児童の主体的な話し合いを進めるためには担任の助言は重要であったが、候補にあげられた係をしぼっていく場面では教師は助言をせず、児童の主体性に任せるべきだったという意見が出された。また、助言の手段としての「司会者へのお助けカード」も有効であったという意見が出された。



4 成果と課題

(1) 成果

講師を招いての研修会では、貴重な実践をもとに、学級での人間関係づくりや学級会での話し合いの方法などを具体的に教えていただいた。

また、授業研究では、児童の実態や学級の目標に基づいた学級活動のあり方について、協議をした。児童の主体性・協働性を高めるために、学級会の運営の方法や教師の支援について、授業を基にしながら具体的に話し合うことができた。

(2) 課題

第2回目の研修では、特別活動の最新の情報に触れることができた。授業研究にもお招きすることにより、具体的な場面での指導方法について、さらに研修を深めることができたと考えた。

